第５回　上牧町地域福祉活動計画作業委員会　議事録

日時：平成２７年１１月２日（月）１６：００～２０：００
参加者：金田先生（佛教大学）、今中氏、岡本氏（県社協）
植村、北嶋、藤岡、安川、吉川、上代

【ヒアリングの整理】

北嶋　ヒアリングをしたのが、小地域ネットワーク、上牧町ボランティア連絡協議会、民生児童委員協議会、ＮＰＯ楽しいまちづくりの会、子育てサロンの利用者。

課題としてあげられていたのは、

・高齢化の問題
・活動者の問題（担い手の減少）
・地域活動の参加者の減少
・活動者の横のつながりがない（ボランティアの窓口が縦割りになっている）
・困り事を相談する場所が分からない
・引きこもりなど支援を必要とする人達への対応

小地域ネットワークのヒアリングでは、どの地区でも地域内の高齢化が言われていた。活動が活発に行われているネットワークでも参加者は住民の１割ほどが現状。高齢者が中心のサロンになっている。

見守り活動に関しても、定時に登校できていない小学生がいることや、一人親家庭が増えていることが言われていた。

また、空き家が増えているとのこと。

金田先生　そのなかでのキーワードはなにか。それぞれの担当業務を通して感じることや課題が地域福祉活動計画の骨子案になってくるが。

岡本氏　次の５年間でまちをどうにかしたいことに注目して計画を立てたほうがいい。

藤岡　前回から「引きこもり」や「精神障害者」がキーワードになっているが、単純に地域で孤立しているというだけでなく、その背景には複雑な問題が隠れているため、その個人だけでなく家庭に対しても支援ができるようにしていかないといけない。地域の中の入り組んだ問題に対してアクションを起こしていくことや丁寧なキャッチの仕方を考えていかないといけない。その人自身の問題やその人の家庭の問題を考えていく。制度で対応できない狭間の支援が必要になると思う。

北嶋　生活困窮の方と関わることが多い。社協だけの関わりではなく、他の専門職や行政との関わりも必要だと感じる。スムーズに対応できる仕組みが必要である。

上代　小地域ネットワークの活動者は、顔の見えない人との関わりがないことを課題としてとらえておられる。地域のなかで顔の見える関係づくりができるような支

援が必要だと感じる。

吉川　「ぷらっと」が障害のある人と住民との関係を築いていける場になればいいと思う。そこから地域の方へのアプローチができていくのではないかと感じる。今後も「ぽけっと」（子育てサロン）の親子との関わりができていけたらと思う。

金田先生　ぷらっとにはどんな展開があるのか。

吉川　喫茶という形はあるが特別な活動ができていない。「ぽっぽ」（地域での子育てサロン）のお手伝いをしているが、喫茶業務が忙しく開催前の準備だけという関わりになっている。

金田先生　メンバーさんのなかでも喫茶活動なら活躍できる人、アート活動なら発揮できる人など多様である。「ぷらっと」に来て障害の人と関わることは福祉教育よりも得るものはたくさんあるはず。

北嶋　生活困窮の方と関わって、仕事に就きたいと思うが就けない状況にあることが見えてきた。「ぷらっと」がそういう社会との接点になってほしい。

安川　作業をしてきて、引きこもりのことや生活困窮の方にどう接していけばいいのか分からないという住民さんの気持ちがよく見えてきた。

岡本氏　住民さんが気づいてくれたことを大切にしないといけない。「何でも言ってください」と言うだけでその後に何もしないでは意味がない。

【小地域ネットワークの存在意義について】

金田先生　小地域ネットワークに求めるものはなにか。

岡本氏　社協内で小地域ネットワークの存在意義を話し合えるか。福祉力が芽生えたときにその力をためる場所が必要で住民一人一人の福祉力をためておく場所がないと発揮できないから地域ごとでためる場所がいる。この点が小地域ネットワークの存在意義なのではないか。

小地域ネットワークは困りごとをぽろっと話せるところで、いい話だけでなく悪い話も隠さずにできることが小地域ネットワークの特徴なのではないか。その活動の意味はなにかを考える必要がある。

金田先生　地域の活動を組織化していくことは大変だが組織を作ってきたことの意味があるからそれを伝えないといけない。常に確認していかないといけない。絶えず組織の意味を確認しておくことが必要。小地域ネットワークの意味、福祉活動の意味を考える。

岡本氏　地域のなかで住民となにができるのか。

金田先生　堺の社協では、社協は専門職のコンサルもしているとのこと。専門職支援も社協は求められているかもしれない。

【ぷらっとについて】

岡本氏　ぷらっとのもつ意味、可能性について考えることが必要であると思う。「障害理解への促進」という表現についてはもう少し実体験が伴ったものとして整理する必要がある。

藤岡　ぷらっとは、ぽけっとの子どもやボランティアの人と関わっている現状。ぷらっとへ行くというよりは、「２０００年会館に来たから行こう」と来てくれる人がいることがポイント。ぷらっとの仕事が増えたため居場所づくりや拠点としての意義が失われているかもしれない。

岡本氏　戦略的にやっていくことを考えていくべきかもしれない。

藤岡　２０００年会館にあることでボランティアとの関わりが増えたことはいいことだが、社協内でぷらっとについてきちんと位置づけを再定義する時期だと感じる。

岡本氏　今気づいたことをしていくことは限界なのでは。やりたいことがあっても喫茶業務が忙しくできない状況。

金田先生　メンバーさんの働く場所、地域との関わりの場所など色々な機能がある。社協はただぷらっとをしているということではない。試行錯誤してチャレンジしていくことも必要かもしれない。見せ所がどこかなのか。ぷらっとが認知されていることはいいことだが、どういう意味で認知されているのかで大きな違いがある。

【目指す地域像について】

北嶋　ヒアリングで活動者の声を聞いて、簡単には解決できない課題がよく聞かれた。

藤岡　基盤づくりでもどういう地域を目指すか。皆が同じようなものを描くように戦略立てて考えていかないといけない。事業そのものの意味合いについても考えていかないといけない。

金田先生　それぞれが思い描いていることを職員内で共有しないといけない。

今中氏　上牧の地域像は社協内で共有し、整理すべき。

岡本氏　すべての課題を解決しようとするのは難しいかも知れない。

金田先生　骨子案に書かれている「暮らしづらさを抱えた人への支援」についても、暮らしづらさは様々。

岡本氏　共感が得られるように、皆が納得できるようなものに。時間を決めて、生み出

す。小地域ネットワークの定例会の意味も考える。専門職と地域はどう出会い、協働するのかをしっくりくるまで描く。今のこの活動はどういう意味があるのかを振り返りたいという気持ちは活動者にもあると思う。

金田先生　今すべきこと

①目指す地域像を具体的に考える。

②それを進めていくには何が必要なのかを考える。

どこかのマネをする必要はないが、他の社協の計画も参考にしてもよい。